

第24回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表団報告書 団長挨拶

2019年5月28日から6月4日にかけて、第24回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表団一行32名は8日間の日本訪問を行いました。

今回の代表団は清華大学、中国人民大学、对外経済貿易大学、北京第二外国語学院、国際関係学院及び北京建築大学の優秀な学生により構成されています。日本滞在期間中、団員らは積水ハウス、日立製作所中央研究所、みずほ銀行、三井物産、ホテルニューオータニといった日本企業5社への訪問、京都大学や一橋大学の学生との友好交流、高台寺や箱根温泉等での日本の伝統文化体験の他、周恩来詩碑及び日比谷松本楼では偉人の足跡をたどり、中国駐日大使館では日中関係の歴史や発展の現状について学び、日本の一般家庭においてはホームステイを体験いたしました。代表団は「日本企業を知り、日本を体感し」、日中友好の種をまきました。今回の訪問は学ぶ旅である以上に、理解や友好を深める旅であると言えます。

日中両国は一衣帯水の隣国であり、両国の関係はこれまで幾度も苦労や紆余曲折を経ながらも平和や友好については常に両国の人々の願いでありました。昨年以降、中国日本商会、日中経済協会等を含む両国各界の取り組みの下、日中関係は正常な発展の軌道に戻りました。今年中国は建国70周年を迎え、日本は「令和時代」に入りました。G20大阪サミット期間中、習近平主席は安倍晋三首相と会談し、日中双方が発展における新たな時代に入り、双方共通の利益や関心事が日に日に増えており、両国関係は新たな発展のチャンスを迎えている。そのため両国は新時代の要求に合った日中関係を共に構築すべきであるという点で共通認識を得ました。

青年は国家や民族の希望であり、日中関係の未来を担っています。両国の青少年交流を強化し、両国の若者世代の相互理解と信頼を高めることは、日中関係の将来的な発展にとって重要な意味を持ちます。両国政府は今年を日中青少年交流推進年と定め、今後5年以内に双方は3万人規模の青少年の相互訪問交流を行います。こうした新たな情勢の下、中国日本友好協会は日本の各界の皆様と共に両国の青少年交流を推し進め、様々な交流活動を実施することで両国の民間交流において最も活力ある存在として日中の代々の友好に貢献をしていく所存でございます。

最後に、今回の代表団の日本訪問に際して多大なご支援を頂いた中国日本商会、日中経済協会に改めまして心より感謝申し上げます。

第24回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表団 団長
中国日本友好協会副秘書長
朱丹